氏　名　等　　小原　勝（おはら　まさる）　　教授	
担当科目	［教養科目］教養・キャリア基礎演習Ⅱ ［専門科目］微生物学、口腔外科学、摂食嚥下リハビリテーション学、歯科総合演習Ⅰ・Ⅱ、口腔解剖学Ⅱ、高齢者歯科、診療補助基礎Ⅰ、診療補助応用Ⅲ・Ⅳ
研究分野	細菌学、口腔総合診療学、口腔外科学
学位	博士（歯学）
主な教育研究業績	・軟骨魚類ゲノム情報をもちいたヒト歯牙発生関連遺伝子との バイオインフォマティクス解析.小原勝，大林泰二，西裕美，小川哲次，河口浩之，二川浩樹.広大歯誌，：49：、1-6、共著、2017年 ・Removal of mutans Streptococci from saliva to establish non-cariogenic oral flora. -A first step on exploring a new method using flow cytometry and cell sorting（う蝕罹患しない口腔細菌叢を確立するため唾液からミュータンス連鎖球菌除去-フローサイトメトリーを用いた新規方法-）.Ohara M, Hayashi I,Oda Y,Furutani C,Obayashi T, Nishi H, Kawaguchi H.IJRES：5:、41-54、共著、2017年 ・CdtC-induced processing of membrane-bound CdtA is a crucial step in *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* Cytolethal Distending Toxin Holotoxin Formation.（CdtC誘導膜結合型CdtAの修飾がアグレガチバクターアクチノミセテムコミタンス CDT ホロ毒素形成に重要である）.Tsuruda K, Matangkasombut O, Ohara M, Sugai M.Infect Immun：86：、e00731-17、共著、2018年 ・フローサイトメーターを用いたう蝕原因菌の迅速検出・定量化の可能性.小原勝,海原康孝,石川隆義.全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌 9 号(通算 24 号)37-43.共著、2020年 ・採取唾液48時間後の口腔常在菌叢の変化.小原　勝、目瀬　浩、山本大介、高倉裕明、海原康孝、石川隆義.全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌 10 号(通算 25 号)29-38.共著、2021年 ・過去 10 年間の歯科衛生士国家試験問題からみえてくるもの.小原勝.大垣女子短期大学紀要（accepted）2022年 ・ Proposal for salivary auto-transplantation as a probiotic against radiation-induced stomatitis.（放射線性口内炎に対する自己唾液のプロバイオティクス化提案）Ohara M, Hayashi I, Takakura H, Yamamoto D, Mese HIJRES :10 (4): 59-72 2022年
所属学会	・日本細菌学会(2000年加入：ＩＣＤ認定医2009年～) ・分子生物学会(2000年加入) ・米国細菌学会[ＡＳＭ](2018年加入) ・全国大学歯科衛生士教育協議会(2019年加入)
社会的活動業績	・広島県東広島市1.6歳児歯科検診従事(H22年4月～H28年3月) ・カンボジア歯科検診ボランティア参加（3月第1週）[3回](H26年～28年) ・米国州立University of Floridaフロリダ大学客員研究員 (H29年10月～H30年10月)
その他	